

平成 29 年度 大田区区民協働推進会議（第 4 回）

日時：平成 29 年 11 月 9 日（木）

場所：本庁舎 2 階 203 会議室

【議題】

- 1 地域力応援基金助成事業について
 - (1) 平成 29 年度募集 平成 30 年度実施ステップアップ助成〔新規〕の審査について
 - (2) 平成 30 年度実施助成事業〔継続〕審査について
- 2 平成 29 年度調査・研究テーマについて
 - (1) 「おやじの会の実態調査」の状況について
 - (2) 地域力応援基金助成事業の見直しについて
- 3 その他

【出席者】

委員：中島・牛山・川口・杉崎・平澤・志村・櫻井・柳谷・長沼

事務局：地域力推進部長、区民協働担当課長・地域力連携協働支援員・区民協働担当 2 名

【会議録】

	《開会》
事務局	委員 11 名のうち 9 名の方にご出席していただいています。過半数に達していますので、大田区区民協働推進会議設置要綱第 6 条に基づき、会議は有効に成立したことをご報告申し上げます。
会長	《会長あいさつ》
会長	部長から挨拶をお願いします。
部長	《部長あいさつ》
会長	会議を始めさせていただきます。 まず、「地域力応援基金助成事業」の議題のうち、「平成 29 年度募集 平成 30 年度実施ステップアップ助成〔新規〕の審査」について、事務局から説明をお願いします。
事務局	《審査資料配布》
事務局	助成事業の審査内容につきましては、非公開の取扱いとなっております。配付資料につきましては、後刻、職員が資料を回収いたします。 ステップアップ助成は 6 月 12 日から 7 月 14 日まで募集を行い、14 団体から申請をいただきました。事業内容、申請額及び審査結果につきましては、審査資料のとおりです。
委員	《委員全員で審議（質疑・応答）》
会長	事務局案でよろしいですか。
委員	《委員承認》
会長	それでは、審査結果に基づき、区長へ推薦する団体を決定します。
事務局	《配布資料回収》

会長	次に「地域力応援基金助成事業」の「平成 30 年度実施助成事業〔継続〕審査」について、事務局より説明をお願いします。
事務局	<p>継続審査は、各助成の要綱の規定に基づき、1 回に限り可能となっております。本日は、審査員の決定と審査スケジュールの確認をお願いいたします。</p> <p>今年度、継続申請が可能な団体は、スタートアップ 8 団体、ステップアップ 3 団体、ジャンプアップ 1 団体です。継続を希望する団体は、12 月上旬までに申請していただくよう案内しております。</p> <p>審査員につきましては、新規の審査員決定時に、継続審査も審査していただく旨ご了解いただきました。ただし、ジャンプアップ助成については、テーマの提案がなく募集を中止したことから、審査員は決めていませんでした。</p> <p>団体数の関係で、ステップアップ助成、ジャンプアップ助成を同日に審査し、ステップアップ助成をご担当された方に審査員を行っていただくことを案としました。審査スケジュールは、1 月下旬から 2 月上旬までを案としております。</p>
会長	<p>今の説明内容につきまして、質問、ご意見等がございましたら発言願います。</p> <p>《発言なし》</p>
会長	事務局案でよろしいですか。
委員	《委員承認》
会長	<p>それでは、事務局案のとおり決定します。継続審査につきましては、そのように進めてください。</p> <p>次に、本推進会議が取り組む調査・研究テーマについて、まず「おやじの会の実態調査」について、事務局より説明をお願いします。</p>
支援員	<p>「おやじの会」は区立小・中学校の保護者を中心に構成されていることから、10 月 25 日の校長会で本調査について説明した後、同日に各校へ調査票を発送しました。</p> <p>調査対象は、大田区立の 59 小学校及び 28 中学校です。</p> <p>調査票は、「学校用」と「おやじの会」用の 2 種類で 1 組となっており、「学校用」はすべての学校に回答していただきます。さらに「おやじの会」がある学校は、学校を通じて「おやじの会」用の調査票を会の代表者に渡していただきます。</p> <p>これまで「おやじの会」の調査実績がないことから、「おやじの会」用の調査票には、会の人数や収入の方法、取組み内容なども回答していただくようにしました。</p> <p>調査を通じて、活動状況だけでなく地域や保護者の中で果たしている役割を把握できればと考えております。</p> <div data-bbox="311 1601 1444 1859" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【11 月 9 日時点の回収状況】 ※11 月 30 日まで回収期間</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 小学校 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校 31 (回収率 53%) ※うち「おやじの会あり」と回答 19 ・ おやじの会 9 ■ 中学校 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校 16 (回収率 57%) ※うち「おやじの会あり」と回答 2 ・ おやじの会 1 </div> <p>現時点での回答状況から、中学校ではあまり「おやじの会」がないようです。一方、小学校は現時点で 61%が「おやじの会あり」と回答しており、最終結果も 60%台になるのではと思っております。</p> <p>また、地域により「おやじの会」の有無に偏りがあるようです。小学校についてみると、</p>

	<p>大森地域はほぼ全域にありそうです。調布地域は回収が不十分ですが、千束地区の3校は揃って「ない」との回答です。蒲田地域はばらつきがありそうです。近隣学校に影響されるのかもしれませんが。</p> <p>また「おやじの会がない」と回答した学校に、あるとよいと思うのはどんなときか、質問をしています。その回答の傾向は2つあり、まず一つは学校や地域の行事等でのパトロール、警備といった、安全面での期待があるようです。もう一つは、「そもそも必要性を感じない」という回答です。その場合は、「おやじの会」がなくても、PTA や地域のスポーツ団体等、他の組織で補えているようです。</p> <p>次回の推進会議で、調査結果をある程度まとめて提供できる予定です。</p> <p>さらに年明けには、調査で把握した、特徴的な取り組みをしているおやじの会にヒアリングを行う予定です。</p>
会長	ただいまの説明内容につきまして、質問・意見等がございましたら発言願います。
平澤委員	PTA におやじの会が包含されているのでしょうか。
支援員	学校によって異なり、PTA のもとでの保護者活動の一つとして、PTA で補助金を出している場合もあれば、学校支援地域本部が把握するボランティア団体の一つとして位置付けている場合もあるようです。
会長	「おやじの会」の会員の年齢層を聞けば、より実態が把握できるのではないのでしょうか。
支援員	<p>基本的には児童・生徒の保護者が会員です。私自身も「おやじの会」で活動していますが、会員の年齢までは把握していないため、質問しても回答できない場合が多いと判断し質問に入れていません。保護者が会員であるため、一定幅の年齢層だろうと考えています。</p> <p>また、学校によって会員を父親に限定しない場合やOB が参加している場合もあります。</p>
会長	六郷地区では、学校支援地域本部が PTA 活動を補完する場面が多いので、「おやじの会」の名前をさほど聞かないのかもしれませんが。ネットワーク化して、連合組織を作るのもよいのではないのでしょうか。
平澤委員	調査を行った結果が何らかの形で地域の発展に繋がってほしいと思います。
支援員	回答があった「おやじの会」に呼びかけ、一堂に会して互いの事例を紹介するなど、全体の情報を把握し共有する場面を作り、学び合い刺激し合えればと考えています。
川口委員	先日大森地域で開催されたお祭りでは、各校の「おやじの会」の方が手伝いに来てくださり大変盛り上げていただきました。
櫻井委員	<p>中学校の「おやじの会」の活動に興味があります。自分の父親が学校に来るのは嫌でも、友人のお父さんなら好意的な生徒も多いように思います。</p> <p>また、退職した男性が地域コミュニティへの参加に悩む場合もあるようですし、父親同士のネットワークがあることで、地域活動に参加しやすくなるのではないのでしょうか。</p>
志村委員	「おやじの会」は比較的自由な組織として存在しているようですが、一方で同じく学校単位で設けられている PTA は閉塞感があるという声も聞きます。
支援員	元来、PTA の仕事は役員の交代があっても継続できるよう、仕事が先に決まっているため自由さが少ないと感じる方もいるようです。PTA も学校ごとに特色があり工夫していて、新しい発想を柔軟に取り入れているところもあるようです。

櫻井委員	最近は電車で子どもをおんぶする男性を見かけるなど、昔と比べて男性の地域への関心も変化してきていると感じます。
支援員	入学式での男性保護者の出席状況からでもその変化は感じられます。昔は母親だけのことが多かったですが、現在は両親とも出席していることが多いようです。 「子どものために何かしたい」という思いを持った時に、「おやじの会」があれば仲間ができ、地域活動にもつながりますが、なければそのままですので、「おやじの会」の役割は重要であり、ひいては地域力の向上につながると思います。
会長	他に質問はないでしょうか。それでは、予定のスケジュールで調査を進めてください。次に、「地域力応援基金助成事業の見直し」について、事務局より説明をお願いします。
事務局	本テーマにつきましては、現在の助成制度全体についてあらためて自由にご意見をいただくとともに、時間があればスタートアップ助成に絞り込んでご議論いただきたいと思えます。地域力応援基金を活用してどのように協働を広げていくか、経費のあり方なども見直しの一つになるのではと考えております。 なお、前回議論になった面接審査のあり方で出たご意見を反映し、先日実施したステップアップ助成のプレゼンテーション審査で録音したことをご報告いたします。
長沼委員	他自治体と比較し、大田区は助成額が大きいようです。この金額について、ねらいや経過はあるのでしょうか。 また、実施事業の成果について、さらに評価を重視したほうがいいのではと思います。
事務局	助成金額は、事業開始時から他自治体よりも高い設定です。 助成額についても見直しの一つだと考えております。たとえばステップアップ助成は、1団体あたりの上限額が300万円であり、背伸びした事業及び収支計画を立てる団体と、現実的な団体の2極化が見られます。
平澤委員	大田区の助成額は他自治体よりも多いかもしれませんが、区の活性化につなげるための区の指針であればよいことだと思います。
櫻井委員	活動資金が少なく、助成があれば事業拡大が期待できる地域活動団体もありますが、申請手続きに手間がかかり、難しいという声も聞きます。ある団体の方は「他の方に手伝っていただくのは申し訳ないから申請を諦める」と言っていました。
柳谷委員	地域力応援基金助成事業の申請にあたっては、区民協働担当の職員が申請書作成のアドバイスをしているので、相談してみるのはいかがでしょうか。
会長	会社勤めをしていた方は書類作成が得意であることが多いと思います。私の町会では、定年退職を迎えた方々の組織を作り、書類作成などを担っていただいています。
志村委員	そのような組織は、定年退職を迎え地域に入ってきた方の活躍の場にもなります。
長沼委員	助成事業の実施結果の評価は難しいのではないかと考えています。多くの自治体が助成金制度を設け市民活動の支援に取り組んでいますが、参考になる事後評価をしている自治体があれば、事例を知りたいです。
副会長	大田区を含めどの自治体も事業評価を行っていますが、定性的な評価は難しいようです。中には協働の相手方と行政がそれぞれ事業を評価し、事業が成功しているかを判断していた自治体もありました。客観的な資料をもとに点数化できればいいですが、なか

	なか難しいと思います。
部長	行政も自己評価を行い、目標への取組みについて評価していますが、難しいです。助成事業については、途中経過の情報が断片的なことが多く、事業計画書と実績報告書だけでは、途中経過や想定外の展開は評価しづらいと思っています。
志村委員	第三者の視点や気づきは大切だと思います。先日助成事業の経過観察に行った際、参加者のほとんどが楽しんでいるように感じた反面、乳児など配慮が必要な方もいることが気になりました。経過観察の結果を団体にフィードバックすることで、事業の質の向上につながると思います。
事務局	経過観察での評価や助言は、活動の一助になるのではないかと思います。最近、助成終了団体の活動取材し、参考になるような事例はオーちゃんネットで広報しています。
会長	団体活動は、自立を考えて取組むのがよいと思います。事業に必要な資金は、参加費を徴収して集めるなどの工夫が必要です。創意工夫して事業や資金を作り、不足分は助成制度等を利用するなど、自立を見据えることが大切です。
杉崎委員	大田区内で活動する団体の中には、単独でも素晴らしい活動をしている団体があります。そのような団体へも支援する制度になると良いと思います。
牛山委員	「地域力応援基金助成事業」は、団体間の連携・協働を促す制度であり、そのような団体を育成したいという目的があります。この本来の主旨は変えず、新たな枠の検討をすることは、検討してもいいかもしれません。
長沼委員	助成事業をどのような方向性で見直すか、過去の助成事業も追跡しながら進める必要があると思います。経験豊富な団体が繰り返し助成事業を受けられるという仕組みも検討の余地があるでしょう。事務的な課題も挙げられているので、並行して進めていくのが良いと思います。
支援員	助成制度は、協働施策の一環として多くの自治体が設けていますが、制度の仕組みや意味合いは自治体により異なります。大田区でも、改めて助成制度の意義について整理し、審査の際にその考えを打ち出すとよいのではないのでしょうか。
会長	予定していた議題は以上です。その他、何かございましたら発言願います。事務局から報告等がありますか。
	《事務連絡なし》
会長	それでは、次回の推進会議の日程について、事務局からお願いします。
	《平成 29 年度 第 4 回は、1 月 9 日（火）に開催》 《平成 29 年度 第 5 回は、2 月 8 日（木）に開催》
	《閉会》